

平成28年1～3月期結果(確報)の概要

I 今期の概況

1 今期の個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I

① 今期の業況判断

今期（平成28年1～3月期）の業況判断D Iは (-)62.8 で、前期（平成27年10～12月期）(-58.1)に比べ、4.7ポイントの悪化。

② 来期の見通し

来期（平成28年4～6月期）の業況見通しD Iは (-)59.2 で、今期の業況判断 (-62.8)に比べ、3.6ポイントの改善の見通し。

図1 業況判断D Iの推移 — 調査産業計 —



表1 業況判断の割合 — 調査産業計 —

	平成27年				28年		
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期 見通し	
今期の業況, 来期の業況 (%)							
良い/好転	3.1	3.5	4.0	4.2	3.6	3.2	
普通/不変	28.4	32.7	30.4	33.5	30.1	34.4	
悪い/悪化	68.5	63.8	65.5	62.3	66.4	62.4	
D I	-65.4	-60.3	-61.5	-58.1	-62.8	-59.2	
参考	日銀短観(大企業全産業計)	16	19	19	18	13	11
	中小企業景況調査(全産業計)	-29.7	-24.6	-24.7	-22.9	-29.0	-14.9

(注) 「中小企業景況調査」：(独)中小企業基盤整備機構作成

(注) 今期の調査票回収時期は、平成28年4月上旬から中旬までである。

2 今期の売上高及び営業利益

① 今期の1事業所当たりの売上高は、

- 「製造業」は 229万3000円で、前年同期に比べ、5.1%の増加
- 「卸売業、小売業」は 356万6000円で、前年同期に比べ、1.0%の減少
- 「宿泊業、飲食サービス業」は 225万3000円で、前年同期に比べ、10.3%の増加
- 「サービス業」は 113万4000円で、前年同期に比べ、7.6%の減少

② 今期の1事業所当たりの営業利益は、

- 「製造業」は 68万5000円で、前年同期に比べ、15.1%の増加
- 「卸売業、小売業」は 35万3000円で、前年同期に比べ、10.4%の減少
- 「宿泊業、飲食サービス業」は 41万8000円で、前年同期に比べ、12.1%の増加
- 「サービス業」は 37万9000円で、前年同期に比べ、4.1%の減少

※前年同期(平成27年1～3月期)

表2 産業別売上高及び営業利益

(1事業所当たり)

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業		
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	
実数 (千円)	平成26年	1～3月期	2,293	654	4,007	463	2,018	341	1,102	352
		4～6月期	2,131	613	3,981	431	2,154	402	1,210	456
		7～9月期	2,314	626	4,146	370	2,168	420	1,230	433
		10～12月期	2,444	658	4,384	511	2,150	422	1,301	480
	平成27年	1～3月期	2,182	595	3,601	394	2,042	373	1,227	395
		4～6月期	2,466	673	3,729	428	2,148	365	1,327	469
		7～9月期	2,310	675	3,609	366	2,203	368	1,215	446
		10～12月期	2,379	644	4,065	484	2,312	470	1,285	471
	平成28年	1～3月期	2,293	685	3,566	353	2,253	418	1,134	379
	前年同期比 (%)	平成26年	1～3月期	9.9	16.2	1.5	25.8	-1.9	-11.0	-10.6
4～6月期			-2.4	-2.7	1.2	8.3	3.2	-5.2	-13.9	-12.6
7～9月期			9.2	-3.8	4.5	-17.0	0.5	-3.0	-3.5	-0.9
10～12月期			-1.2	-2.7	0.2	15.9	-4.4	3.9	2.1	7.1
平成27年		1～3月期	-4.8	-9.0	-10.1	-14.9	1.2	9.4	11.3	12.2
		4～6月期	15.7	9.8	-6.3	-0.7	-0.3	-9.2	9.7	2.9
		7～9月期	-0.2	7.8	-13.0	-1.1	1.6	-12.4	-1.2	3.0
		10～12月期	-2.7	-2.1	-7.3	-5.3	7.5	11.4	-1.2	-1.9
平成28年		1～3月期	5.1	15.1	-1.0	-10.4	10.3	12.1	-7.6	-4.1

3 今期の設備投資額

① 今期の1事業所当たりの設備投資額は、

- 「製造業」は 7万円で、前年同期(11万1000円)に比べ、減少
- 「卸売業、小売業」は 5万3000円で、前年同期(10万9000円)に比べ、減少
- 「宿泊業、飲食サービス業」は 5万5000円で、前年同期(4万7000円)に比べ、増加
- 「サービス業」は 7万2000円で、前年同期(3万7000円)に比べ、増加

② 今期の1事業所当たりの設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は、

- 「製造業」は 3.1%で、前年同期(5.1%)に比べ、2.0ポイントの低下
- 「卸売業、小売業」は 1.5%で、前年同期(3.0%)に比べ、1.5ポイントの低下
- 「宿泊業、飲食サービス業」は 2.4%で、前年同期(2.3%)に比べ、0.1ポイントの上昇
- 「サービス業」は 6.3%で、前年同期(3.0%)に比べ、3.3ポイントの上昇

※前年同期(平成27年1～3月期)

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

(1事業所当たり)

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)
平成26年	1～3月期	116	5.1	83	2.1	87	4.3	73	6.6
	4～6月期	85	4.0	68	1.7	45	2.1	75	6.2
	7～9月期	104	4.5	85	2.1	77	3.6	40	3.3
	10～12月期	78	3.2	89	2.0	118	5.5	43	3.3
平成27年	1～3月期	111	5.1	109	3.0	47	2.3	37	3.0
	4～6月期	148	6.0	79	2.1	82	3.8	47	3.5
	7～9月期	135	5.8	86	2.4	159	7.2	57	4.7
	10～12月期	93	3.9	81	2.0	62	2.7	71	5.5
平成28年	1～3月期	70	3.1	53	1.5	55	2.4	72	6.3

Ⅱ 業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成28年1～3月期）の業況判断D Iは（-）62.8で、前期（平成27年10～12月期）（-58.1）に比べ、4.7ポイント悪化した。

イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）53.5で、前期（-40.5）に比べ、13.0ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成27年1～3月期）と比較した業況判断D Iは（-）51.9で、前期（-50.2）に比べ、1.7ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成28年4～6月期）の業況見通しD Iは（-）59.2で、今期の業況判断（-62.8）に比べ、3.6ポイントの改善の見通しとなっている。

図2 業況判断D Iの推移 —調査産業計—

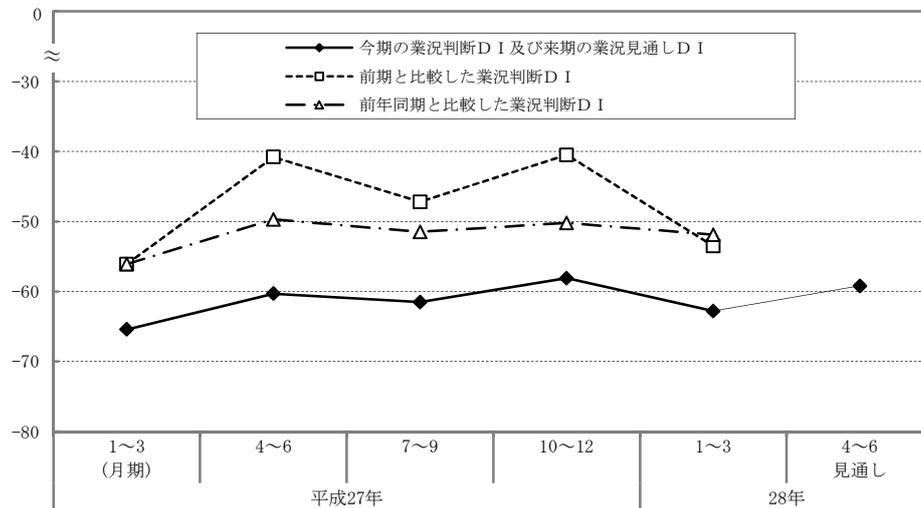
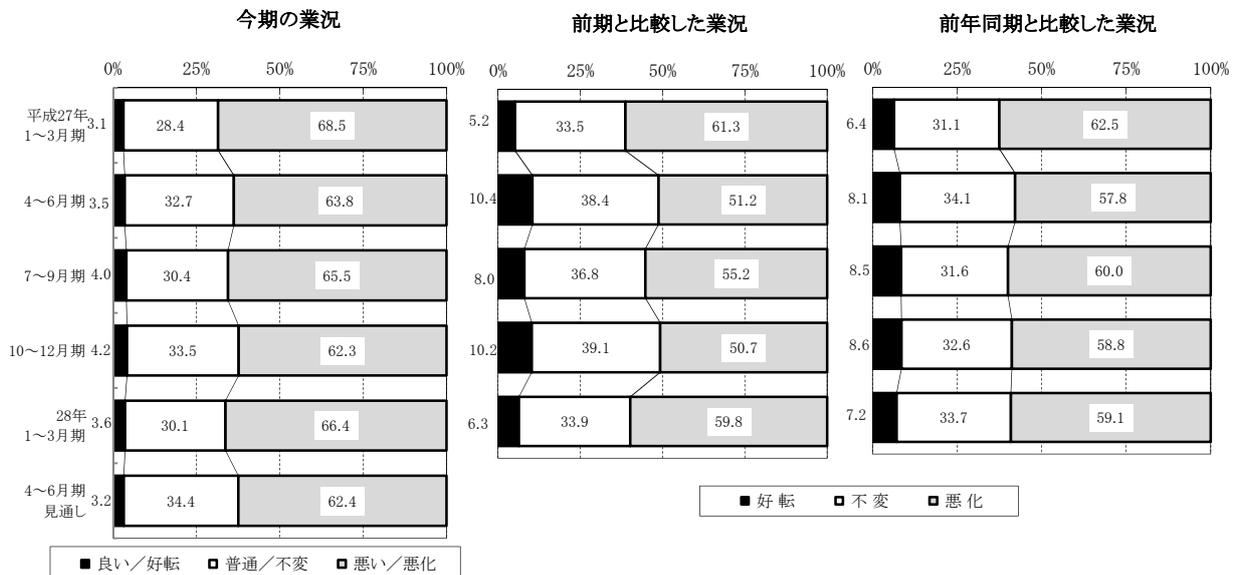


図3 業況判断の割合 —調査産業計—



(2) 売上の状況

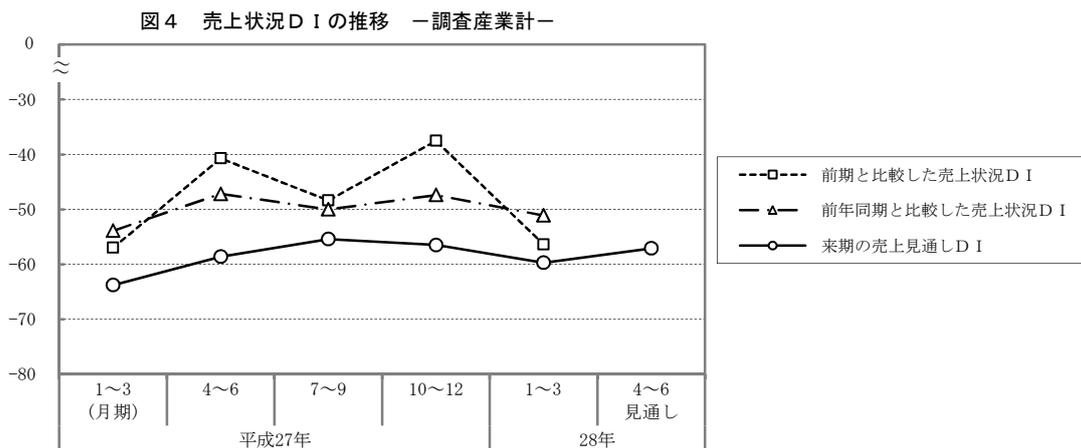
① 今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況DIは (-)56.4 で、前期 (-37.5) に比べ、18.9 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは (-)51.1 で、前期 (-47.4) に比べ、3.7 ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは (-)57.1 で、前期における今期の売上見通し (-59.7) に比べ、2.6 ポイントの改善の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

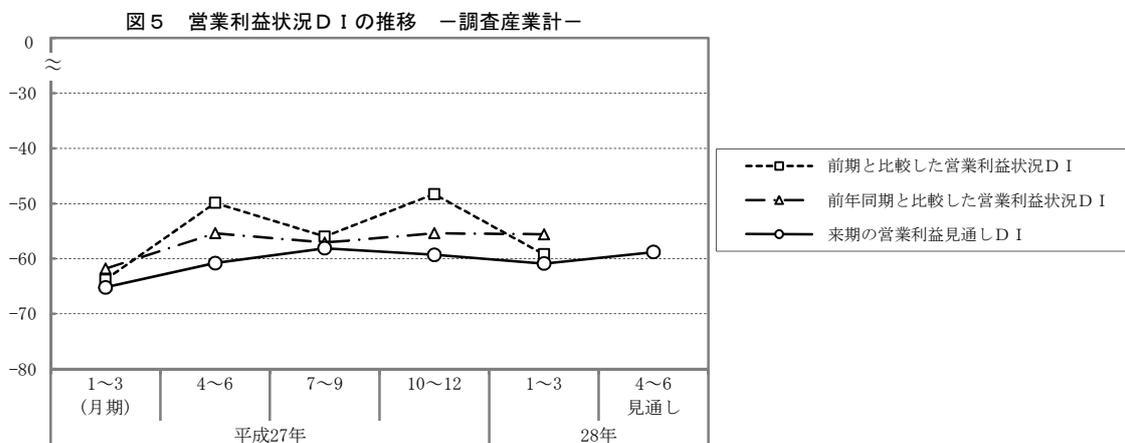
① 今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況DIは (-)59.2 で、前期 (-48.3) に比べ、10.9 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは (-)55.6 で、前期 (-55.4) に比べ、0.2 ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

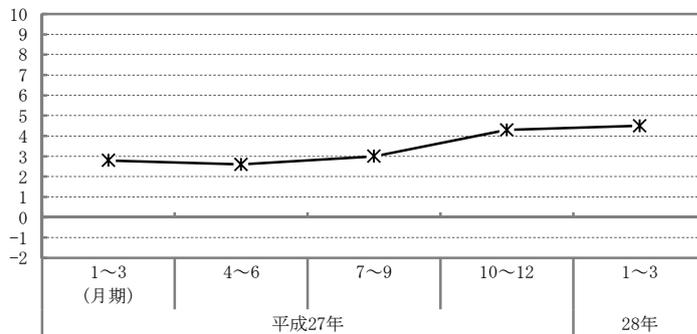
来期の営業利益見通しDIは (-)58.8 で、前期における今期の営業利益見通し (-60.9) に比べ、2.1 ポイントの改善の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)4.5 で、前期 (+4.3) に比べ、0.2ポイント「過剰」が拡大した。

図6 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -調査産業計-

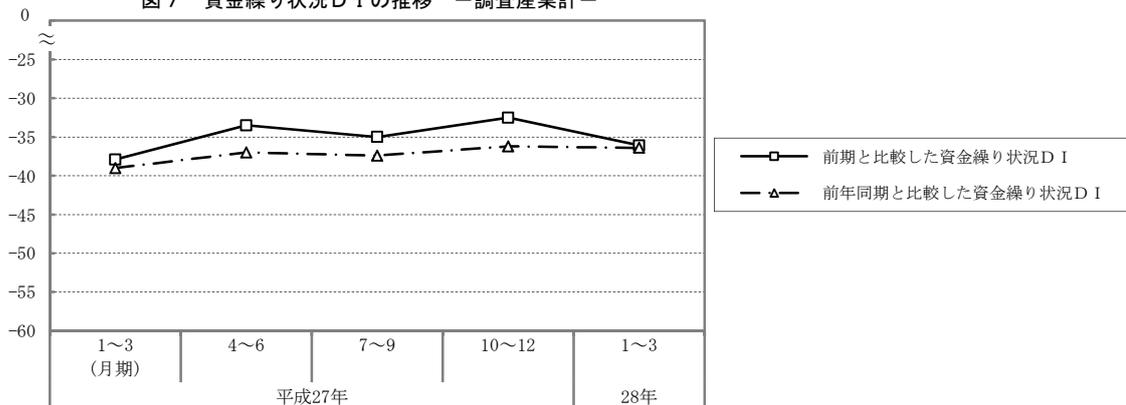


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)36.1 で、前期 (-32.5) に比べ、3.6ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)36.4 で、前期 (-36.2) に比べ、0.2ポイント悪化した。

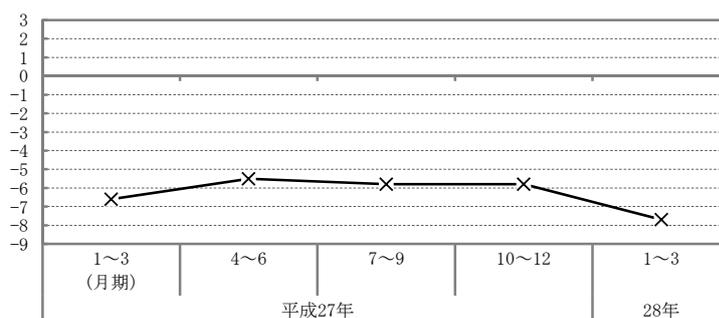
図7 資金繰り状況DIの推移 -調査産業計-



(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)7.7 で、前期 (-5.8) に比べ、1.9ポイント「不足」が拡大した。

図8 雇用状況DIの推移 -調査産業計-



2 製造業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成28年1～3月期）の業況判断DIは(-)46.6で、前期（平成27年10～12月期）(-47.5)に比べ、0.9ポイント改善した。

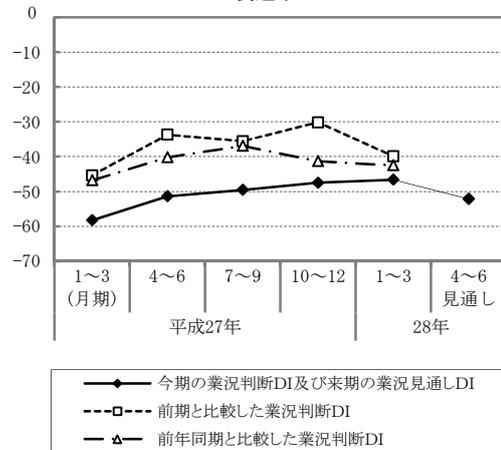
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)39.9で、前期(-30.2)に比べ、9.7ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成27年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)42.5で、前期(-41.3)に比べ、1.2ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成28年4～6月期）の業況見通しDIは(-)52.1で、今期の業況判断(-46.6)に比べ、5.5ポイントの悪化の見通しとなっている。

図9 業況判断DIの推移
—製造業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

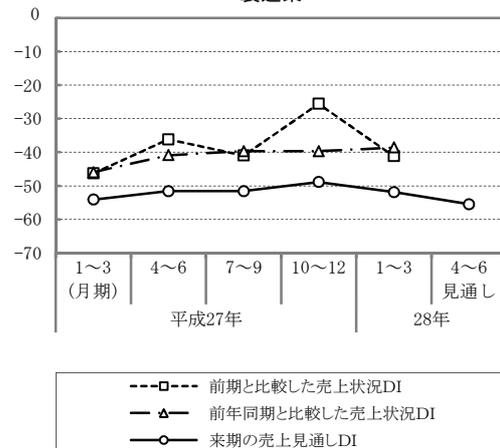
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)41.2で、前期(-25.6)に比べ、15.6ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)38.6で、前期(-39.7)に比べ、1.1ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)55.5で、前期における今期の売上見通し(-51.9)に比べ、3.6ポイントの悪化の見通しとなっている。

図10 売上状況DIの推移
—製造業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

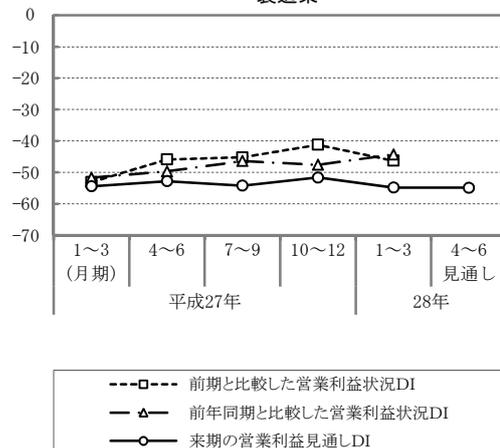
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)46.3で、前期(-41.2)に比べ、5.1ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)44.3で、前期(-47.6)に比べ、3.3ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)54.9で、前期における今期の営業利益見通し(-54.8)に比べ、0.1ポイントの悪化の見通しとなっている。

図11 営業利益状況DIの推移
—製造業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)2.7 で、前期 (+2.0) に比べ、0.7 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)29.6 で、前期 (-27.6) に比べ、2.0 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)30.3 で、前期 (-31.4) に比べ、1.1 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)9.1 で、前期 (-6.1) に比べ、3.0 ポイント「不足」が拡大した。

図12 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -製造業-

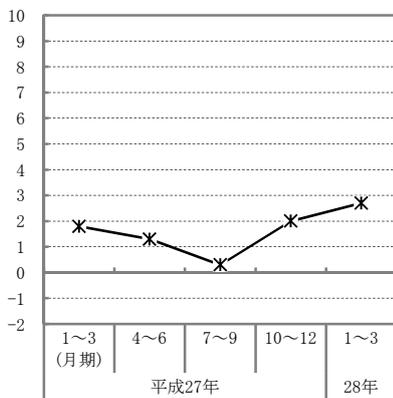


図13 資金繰り状況DIの推移 -製造業-

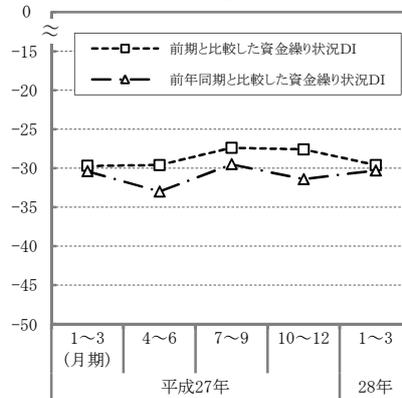
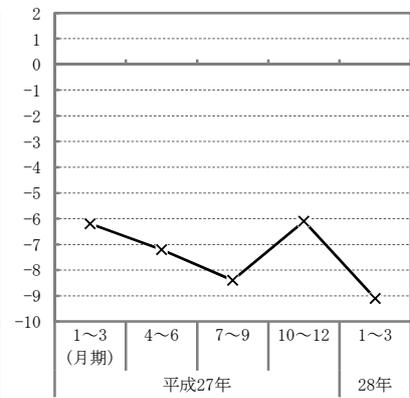


図14 雇用状況DIの推移 -製造業-



3 卸売業, 小売業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期 (平成28年 1~3 月期) の業況判断DIは (-)67.0 で、前期 (平成27年 10~12 月期) (-63.2) に比べ、3.8 ポイント悪化した。

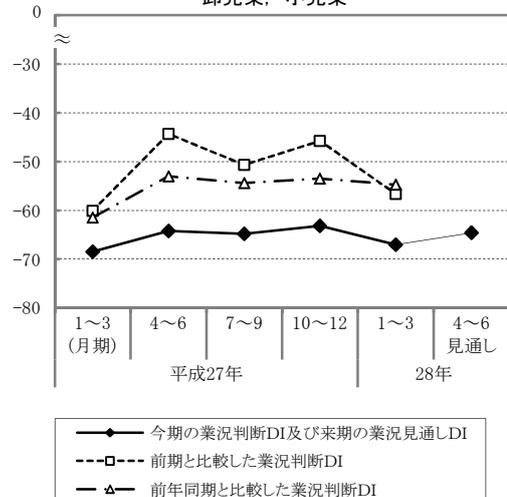
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)56.6 で、前期 (-45.8) に比べ、10.8 ポイント悪化した。

ウ 前年同期 (平成27年 1~3 月期) と比較した業況判断DIは (-)54.7 で、前期 (-53.5) に比べ、1.2 ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期 (平成28年 4~6 月期) の業況見通しDIは (-)64.6 で、今期の業況判断 (-67.0) に比べ、2.4 ポイントの改善の見通しとなっている。

図15 業況判断DIの推移 -卸売業, 小売業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

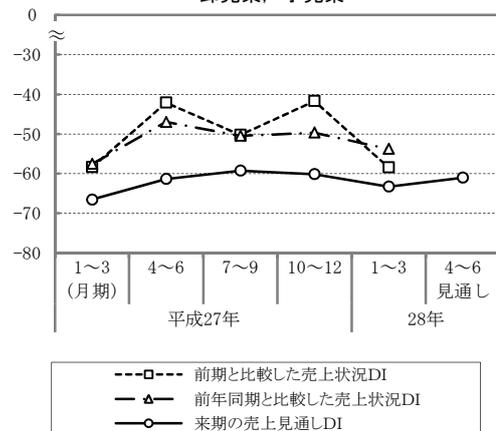
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)58.5で、前期(-41.7)に比べ、16.8ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)53.8で、前期(-49.7)に比べ、4.1ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)61.1で、前期における今期の売上見通し(-63.3)に比べ、2.2ポイントの改善の見通しとなっている。

図16 売上状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

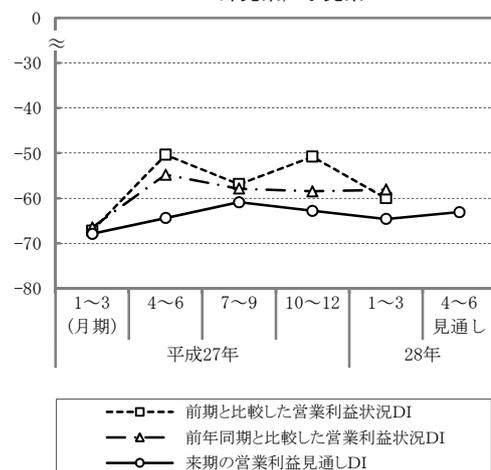
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)60.0で、前期(-50.8)に比べ、9.2ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)58.1で、前期(-58.5)に比べ、0.4ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)63.1で、前期における今期の営業利益見通し(-64.6)に比べ、1.5ポイントの改善の見通しとなっている。

図17 営業利益状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)7.8で、前期(+7.8)から、横ばいとなった。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)38.9で、前期(-32.9)に比べ、6.0ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)38.7で、前期(-36.6)に比べ、2.1ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)6.6で、前期(-5.7)に比べ、0.9ポイント「不足」が拡大した。

図18 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -卸売業、小売業-

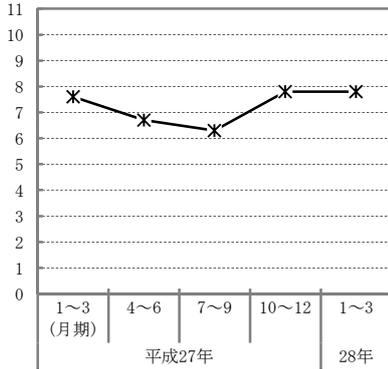


図19 資金繰り状況DIの推移 -卸売業、小売業-

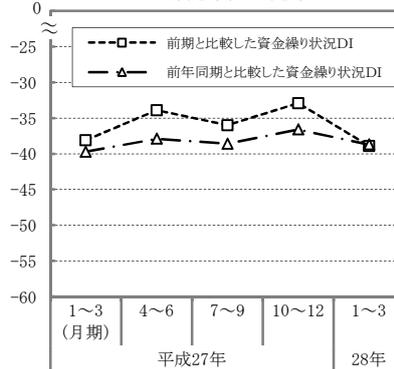
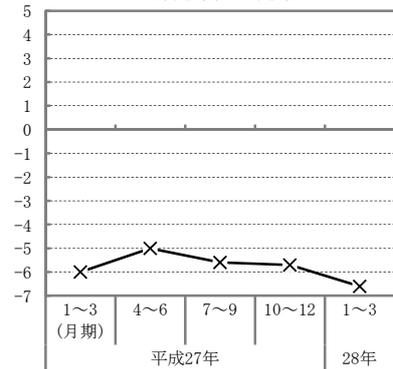


図20 雇用状況DIの推移 -卸売業、小売業-



4 宿泊業、飲食サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成28年1～3月期）の業況判断DIは(-)55.6で、前期（平成27年10～12月期）(-51.0)に比べ、4.6ポイント悪化した。

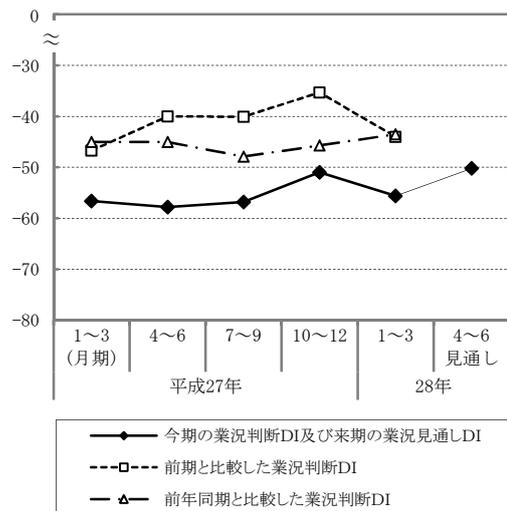
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)44.0で、前期(-35.3)に比べ、8.7ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成27年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)43.5で、前期(-45.7)に比べ、2.2ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成28年4～6月期）の業況見通しDIは(-)50.2で、今期の業況判断(-55.6)に比べ、5.4ポイントの改善の見通しとなっている。

図21 業況判断DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

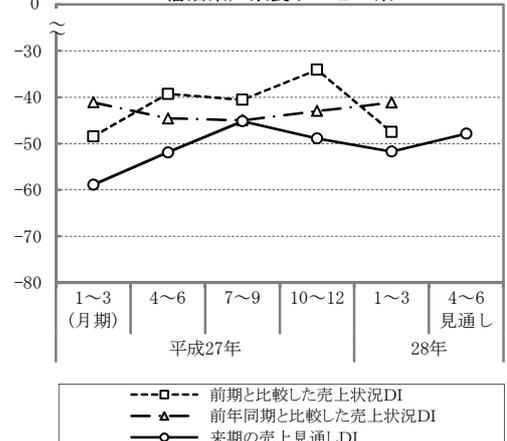
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)47.5で、前期(-34.1)に比べ、13.4ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)41.2で、前期(-43.0)に比べ、1.8ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)47.9で、前期における今期の売上見通し(-51.7)に比べ、3.8ポイントの改善の見通しとなっている。

図22 売上状況DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

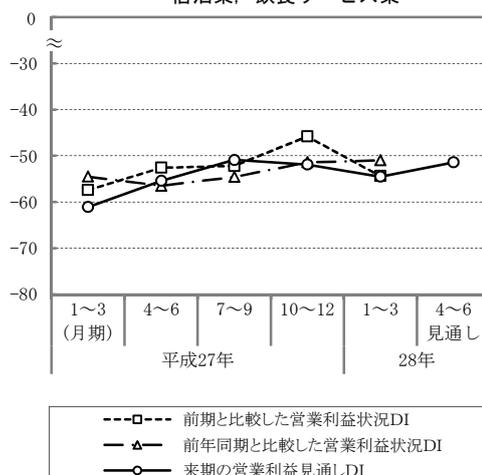
ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)54.4 で、前期 (-45.8) に比べ、8.6 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)51.0 で、前期 (-51.4) に比べ、0.4 ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは (-)51.4 で、前期における今期の営業利益見通し (-54.5) に比べ、3.1 ポイントの改善の見通しとなっている。

図23 営業利益状況D Iの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況D Iは (+)0.9 で、前期 (-0.5) に比べ、1.4 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況D Iは (-)35.7 で、前期 (-37.7) に比べ、2.0 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況D Iは (-)35.2 で、前期 (-41.9) に比べ、6.7 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況D Iは (-)11.9 で、前期 (-8.5) に比べ、3.4ポイント「不足」が拡大した。

図24 製品・商品・原材料の在庫状況D Iの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

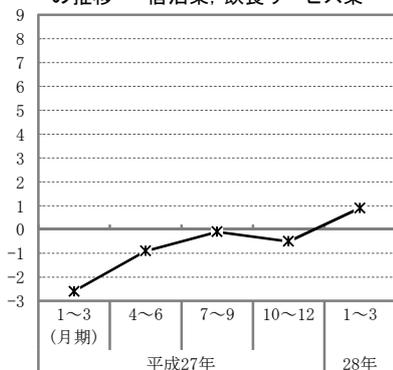


図25 資金繰り状況D Iの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

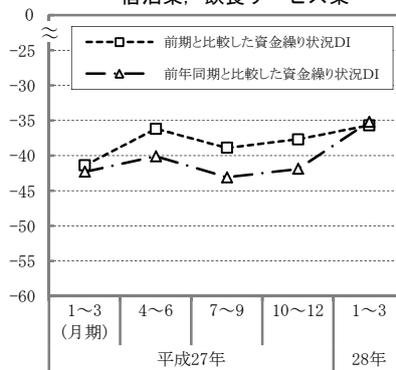
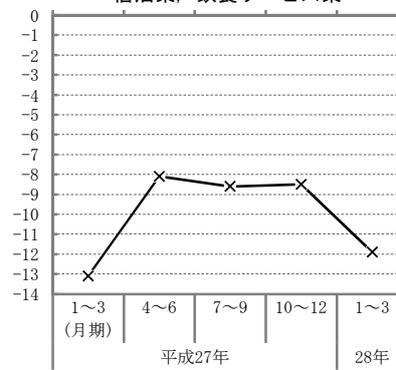


図26 雇用状況D Iの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



5 サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成28年1～3月期）の業況判断DIは(-)69.7で、前期（平成27年10～12月期）(-61.3)に比べ、8.4ポイント悪化した。

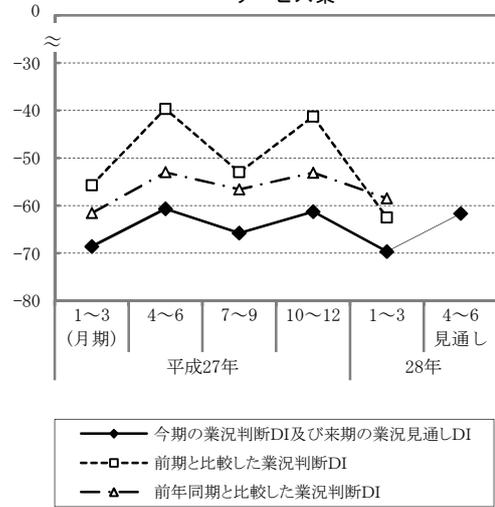
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)62.5で、前期(-41.3)に比べ、21.2ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成27年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)58.5で、前期(-53.1)に比べ、5.4ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成28年4～6月期）の業況見通しDIは(-)61.7で、今期の業況判断(-69.7)に比べ、8.0ポイントの改善の見通しとなっている。

図27 業況判断DIの推移
—サービス業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

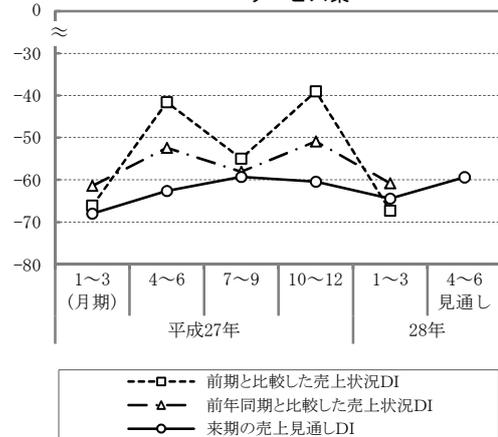
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)67.3で、前期(-39.0)に比べ、28.3ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)60.8で、前期(-50.9)に比べ、9.9ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)59.4で、前期における今期の売上見通し(-64.4)に比べ、5.0ポイントの改善の見通しとなっている。

図28 売上状況DIの推移
—サービス業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

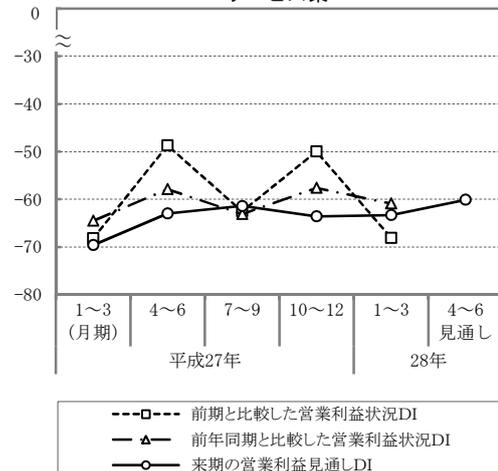
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)68.1で、前期(-50.0)に比べ、18.1ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)60.9で、前期(-57.6)に比べ、3.3ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)60.1で、前期における今期の営業利益見通し(-63.3)に比べ、3.2ポイントの改善の見通しとなっている。

図29 営業利益状況DIの推移
—サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+) 3.0 で、前期(+ 4.0)に比べ、 1.0 ポイント「過剰」が縮小した。

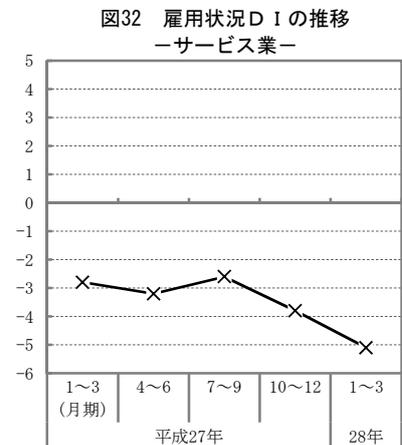
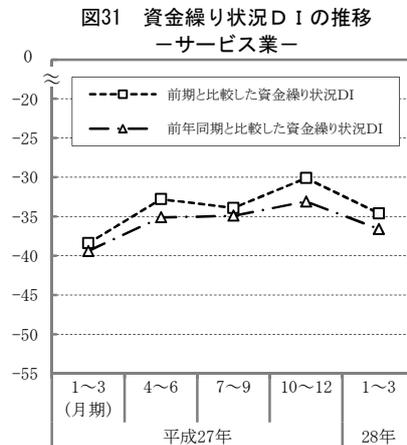
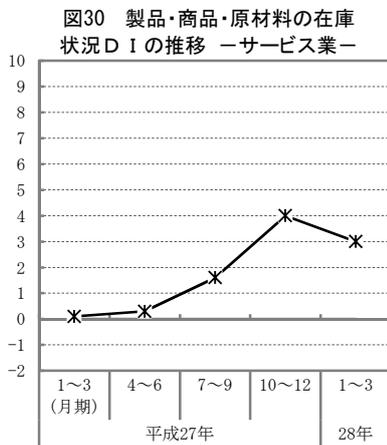
(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-) 34.6 で、前期(- 30.1)に比べ、 4.5 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-) 36.6 で、前期(- 33.1)に比べ、 3.5 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-) 5.1 で、前期(- 3.8)に比べ、 1.3 ポイント「不足」が拡大した。



Ⅲ 営業収支

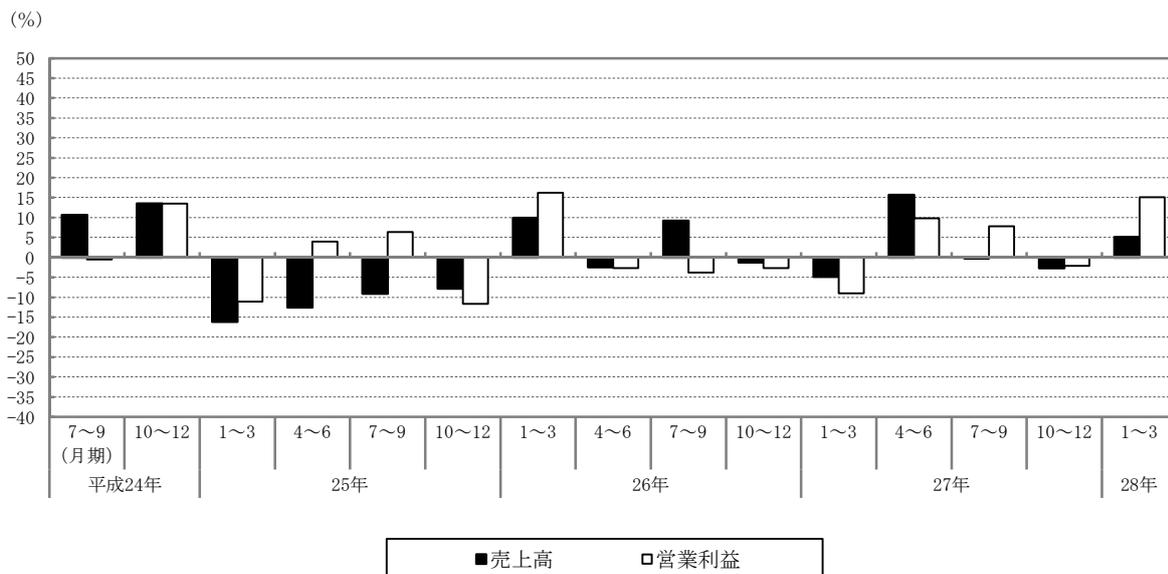
1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は229万3000円で、これに対する費用は売上原価が73万4000円、営業費が87万4000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は68万5000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 5.1% で、3期ぶりに増加した。また、営業利益は(+) 15.1% で、2期ぶりに増加した。

図33 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 — 製造業 —

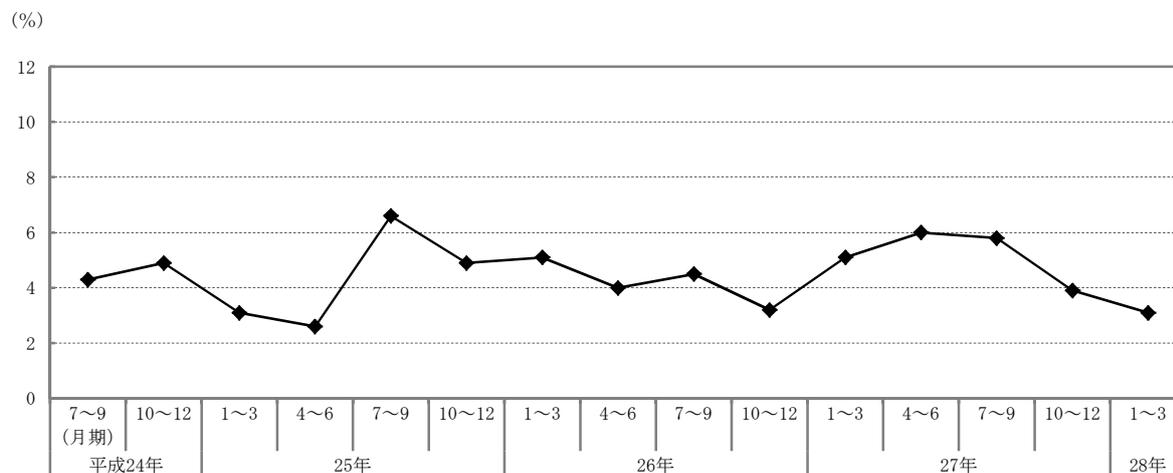


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は7万円 で、前年同期(11万1000円)を下回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は 3.1% で、前年同期(5.1%)を2.0ポイント下回った。

図34 設備投資率の推移 — 製造業 —



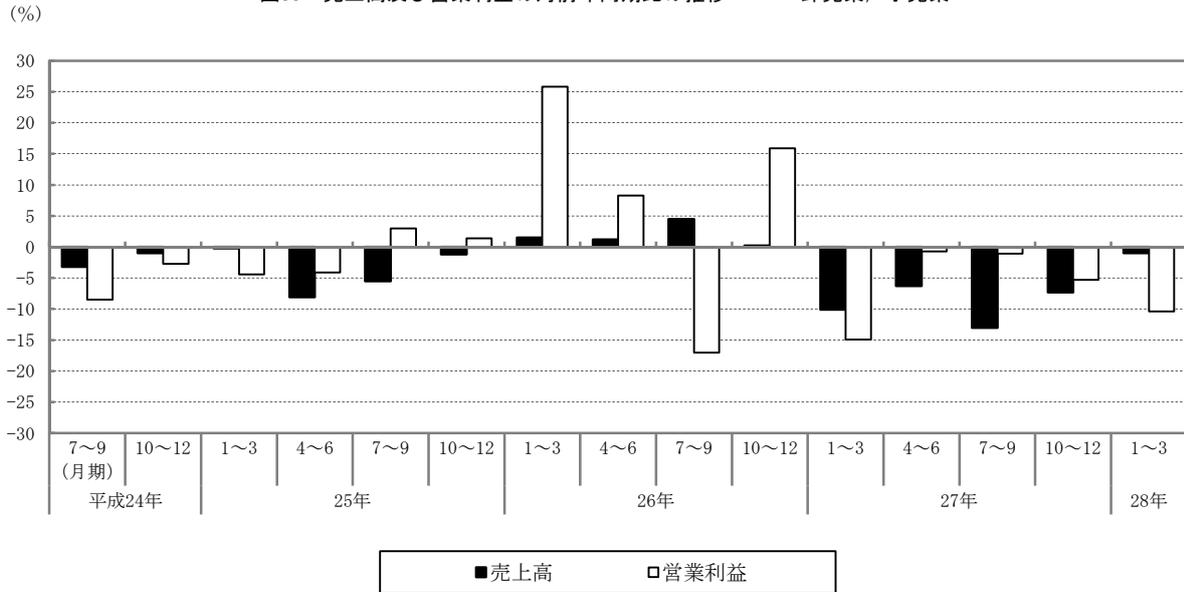
2 卸売業、小売業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は356万6000円で、これに対する費用は売上原価が242万5000円、営業費が78万8000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は35万3000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)1.0%で、5期連続で減少した。また、営業利益は(-)10.4%で、5期連続で減少した。

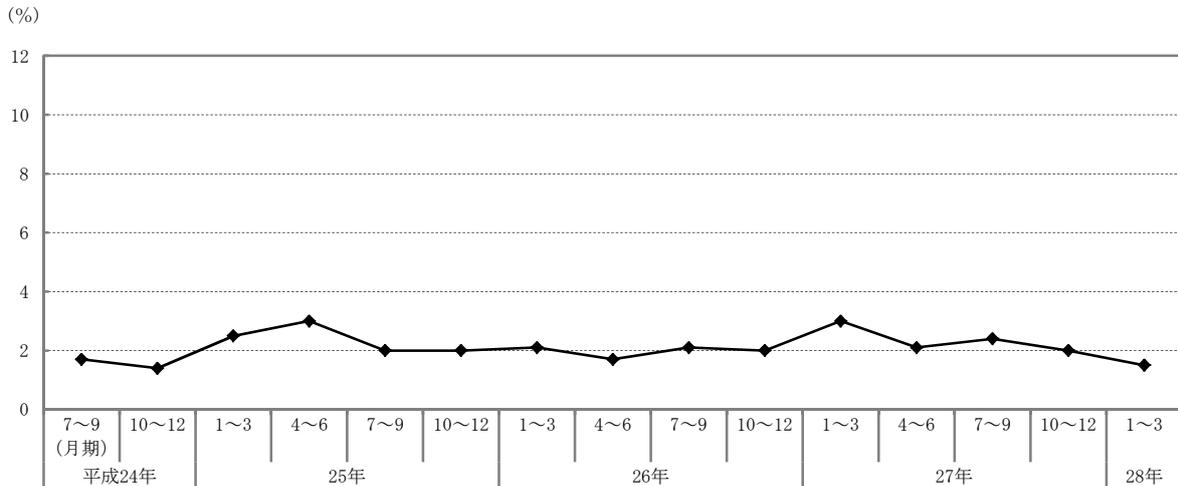
図35 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー卸売業、小売業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は5万3000円で、前年同期(10万9000円)を下回った。また、設備投資率は1.5%で、前年同期(3.0%)を1.5ポイント下回った。

図36 設備投資率の推移 ー卸売業、小売業ー



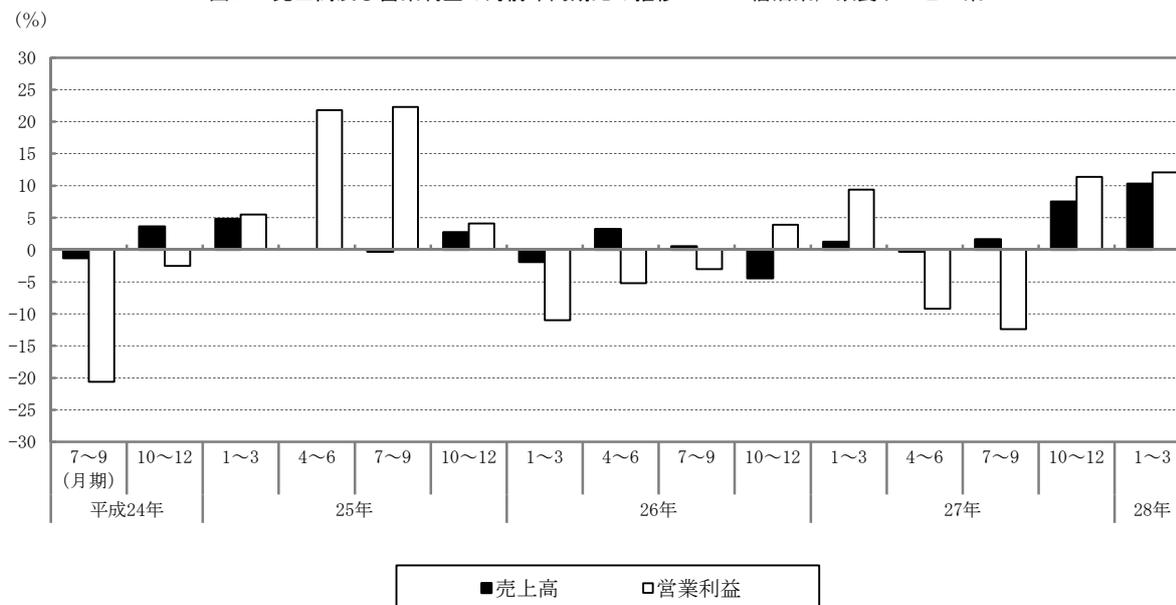
3 宿泊業，飲食サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は225万3000円で、これに対する費用は売上原価が94万6000円、営業費が88万9000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は41万8000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 10.3% で、3期連続で増加した。また、営業利益は(+) 12.1% で、2期連続で増加した。

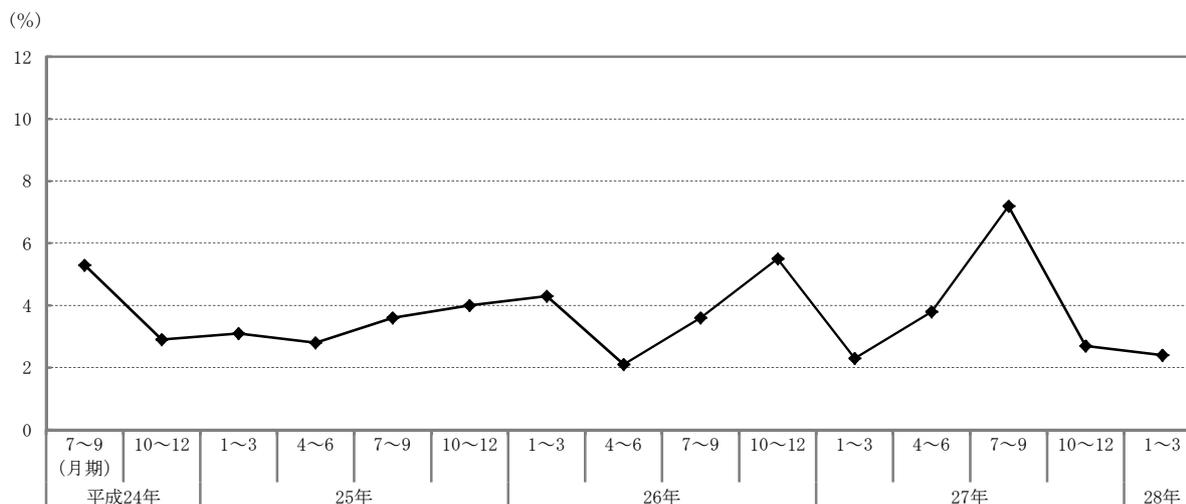
図37 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は5万5000円で、前年同期(4万7000円)を上回った。また、設備投資率は 2.4% で、前年同期(2.3%)を 0.1 ポイント上回った。

図38 設備投資率の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



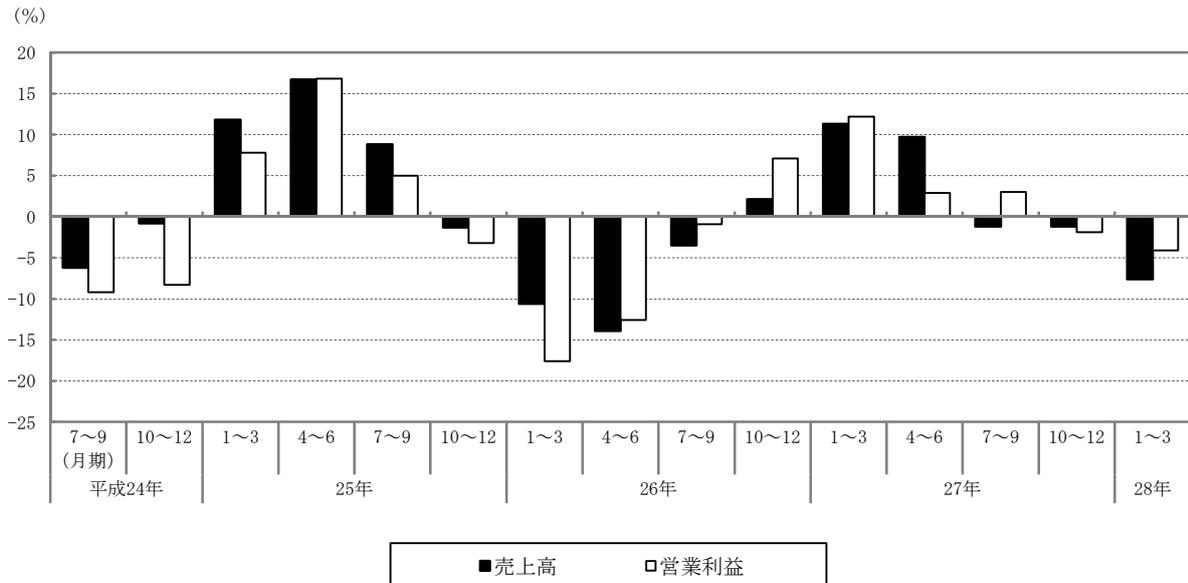
4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は113万4000円で、これに対する費用は売上原価が19万9000円、営業費が55万5000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は37万9000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)7.6%で、3期連続で減少した。また、営業利益は(-)4.1%で、2期連続で減少した。

図39 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 -サービス業-



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は7万2000円で、前年同期(3万7000円)を上回った。また、設備投資率は6.3%で、前年同期(3.0%)を3.3ポイント上回った。

図40 設備投資率の推移 -サービス業-

